

令和6年度

第2回 学校サポーター研修会

# 子どもの理解と支援

～困った子は困っている子～



令和6年10月29日（火）30日（水）  
川崎市総合教育センター 教育相談センター



# 井尻智子

- ❁ 所属：川崎市総合教育センター  
教育相談センター 指導主事
- ❁ 業務：研修関係（CO研・初任研等）  
相談関係（不登校家庭訪問等）
- ❁ 経歴：小学校を9年間ずつ2校勤務  
4年間支援教育コーディネーター

## 自己紹介

# 川崎市総合教育センター

カリキュラム  
センター

情報視聴覚  
センター

特別支援教育  
センター

教育相談  
センター



# 教育相談センター



電話相談

(メール相談)

学校巡回カウンセラー  
(小学校・特別支援学校)

スクールカウンセラー  
(中・高全校配置)

先生方の研修  
リクエスト研修  
希望研修等

不登校  
家庭訪問相談

研究

教育支援センター  
ゆうゆう広場

来所相談



# 自己紹介タイム (グループで)

- ❁ お名前
- ❁ 所属・仕事内容
- ❁ 仕事のことで普段感じていること



# サポーターの皆さんへの期待

個別に支援の必要な子の学習をサポートして、自信をつけさせてほしい。

特別支援級全体をサポートしていただき、よりきめ細やかな支援ができるようにしてほしい。

教室で落ち着かない子のサポートをしてほしい。



# 学校サポーターの役割

- ①学習支援
- ②教育相談支援
- ③その他の教育活動支援



# ①学習支援

- 各教科等における**学習支援**
- 児童生徒の**補習**活動等の支援





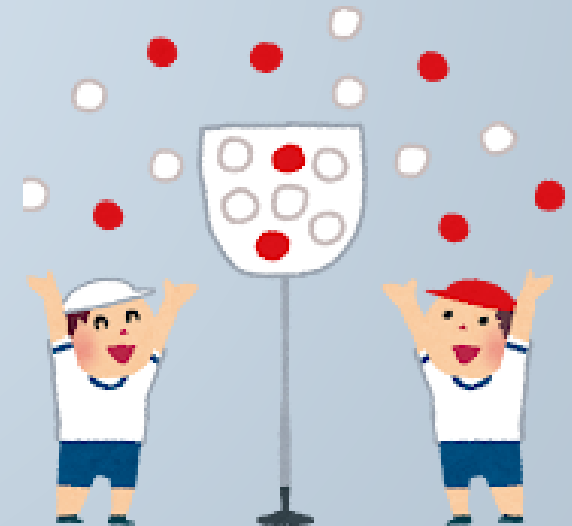
## ②教育相談支援

- ・ 児童生徒の学習や日常生活に対する不安や悩みの相談



## ③その他の教育活動支援

- ・ 行事等も含めた**教育活動全般**が適切に運営されるための支援



# こんな悩みをお持ちでは...

あの子と関係が  
良くならないん  
だよなあ...

毎回、あの子の  
対応に困って  
るんだよなあ...

どう支援すれば  
いいんだろう？



# シェアタイム

サポーターとして、日々どのような悩みをお持ちでしょうか

グループでシェアしましょう



# 学校サポーターの役割

①学習支援

②教育相談支援

③その他の教育活動支援

# 学校サポーターの役割

- ①学習支援
- ②教育相談支援
- ③その他の教育活動支援

子ども理解

# 本日の研修のねらい

子どもを理解する視点を知り、  
教育相談的なかわりについて  
考える。

# 教育相談とは...

教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について本人又はその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。 . . . 決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません。



# 本日の研修

1. 心のシステム
2. 見えないものを考える
3. 自己肯定感を育む



# 1. 心のシステム

こんな子いますか？

例えば…

その1

イライラして、ゴミ箱を蹴と  
ばしてしまった子



## その2

友達を突き飛ばしてしまった子



## その3

雑でいい加減なノートを、乱暴  
に提出する子



見かけたら、どんな声をかけ  
ますか？

その1

ゴミ箱を蹴として



その2  
友達

# 子どもたちの 心の叫び



その3

雑でいい加減ノートを乱暴に提出する子



このような言動は…

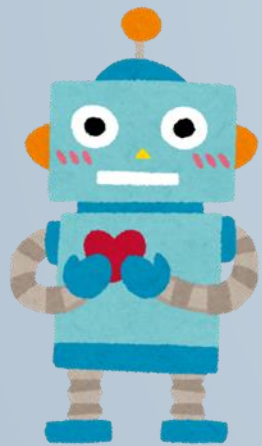




子どもたちの  
心の叫び

を受け止めるために  
**「心のシステム」** を理解する

# 心のシステムとは



心

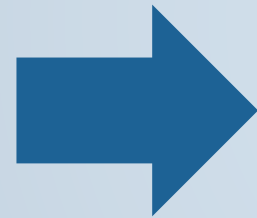
心の容量は限界がある

心は常にアンビバレント

→ 相反する感情が同時に存在する

心の扉で守っている

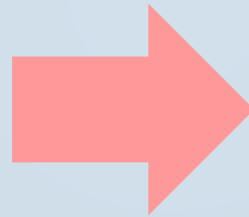
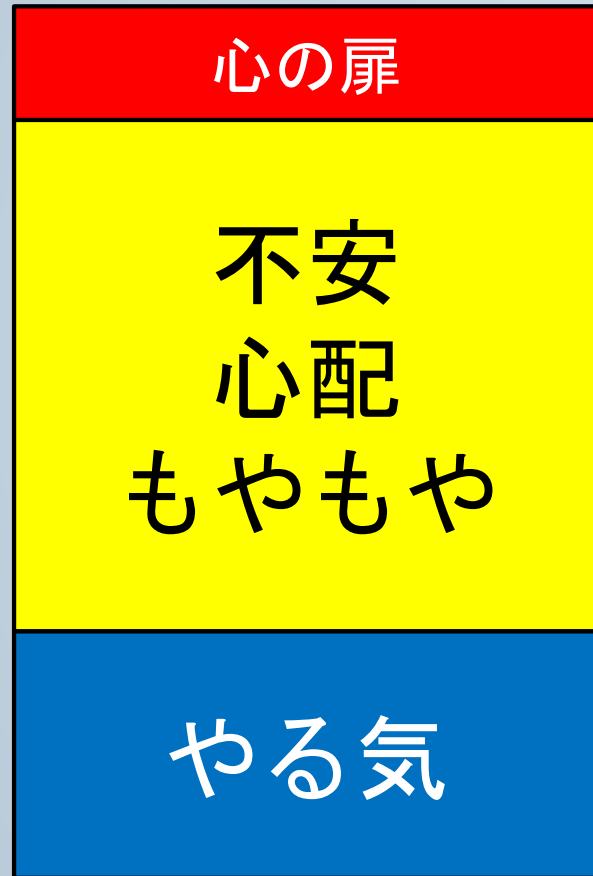
# 否定的に接していると...



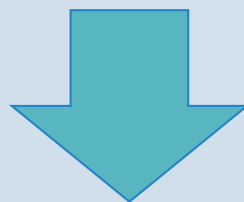
外に向かうと  
反抗・暴力・  
いじめ

内に向かうと  
自傷・不登校  
・引きこもり

# 理解しようと接していると...



私達のかかわり方が子どもの  
「心の扉」を厚くしていないか？



「心の扉」を開けるためには、  
どのようにかかわったらよいのか？

## その1

ゴミ箱を蹴とばしている子どもを見かけました



- ① 「何やってるの！」 「こら！ やめなさい！」  
すぐに注意する
- ② その場では何も言わない
- ③ 「どうした？」 「何かあったの？」 と尋ねる

それぞれどのようなメッセージが伝わるのでしょうか？

# その1

ゴミ箱を蹴とばしている子どもを見かけました



- ①「何やってるの！」 「こら！ やめなさい！」  
すぐに注意する

自分を否定されたというメッセージ

- ②その場では何も言わない

無視されたというメッセージ

- ③「どうした？」 「何かあったの？」と尋ねる

気にしてもらっているというメッセージ

その1

ゴミ箱を蹴とばしている子どもを見かけました



③ 「どうした？」 「何かあったの？」 と尋ねる

＝行為からイライラを察しているということ

→行為ではなく気持ちを聴いてもらえると子どもはキレルスイッチを入れずにすみ、支援につなげることができます

何があったのでしょうか？想像してみましよう



## その2

友達を突き飛ばしていた、と聞き  
ました



- ① 「さっき暴力ふるったでしょう。」
- ② 「〇〇さんを突き飛ばしてたの、△△さん？」
- ③ 「あなたがなんか怒っていたみたいって聞いたけど、どうしたの？」

それぞれどのようなメッセージが伝わるのでしょうか？

## その2

友達を突き飛ばしていた、と聞き  
ました



- ① 「さっき暴力ふるったでしょう」  
頭ごなしに決めつけているというメッセージ
- ② 「〇〇さんを突き飛ばしてたの、△△さん？」  
結果的に△△を責めているように聞こえる  
メッセージ
- ③ 「あなたがなんか怒っていたみたいって聞いた  
けど、どうしたの？」と本人に声をかける  
心配してもらっているというメッセージ

## その2

友達を突き飛ばしていた、と聞きました



③ 「あなたがなんか怒っていたみたいって聞いたけど、どうしたの？」

→突き飛ばした行為より、先にその時の気持ちを言語化すると、自分の行為をふり返りやすくなります。その後、両者で事実を確認し指導につなげます

会話の続きを想像してみましょう

### その3

乱暴にノートを提出しました  
あまりにも雑でいい加減です



- ① 「ちょっと、もう少しきれいに書けないの？  
受け取れないよ」
- ② 「そんな乱暴な出し方、失礼だな、やり直し」
- ③ 「何かあったの？」

もうおわかりですね

## その3

乱暴にノートを提出しました  
あまりにも雑でいい加減です

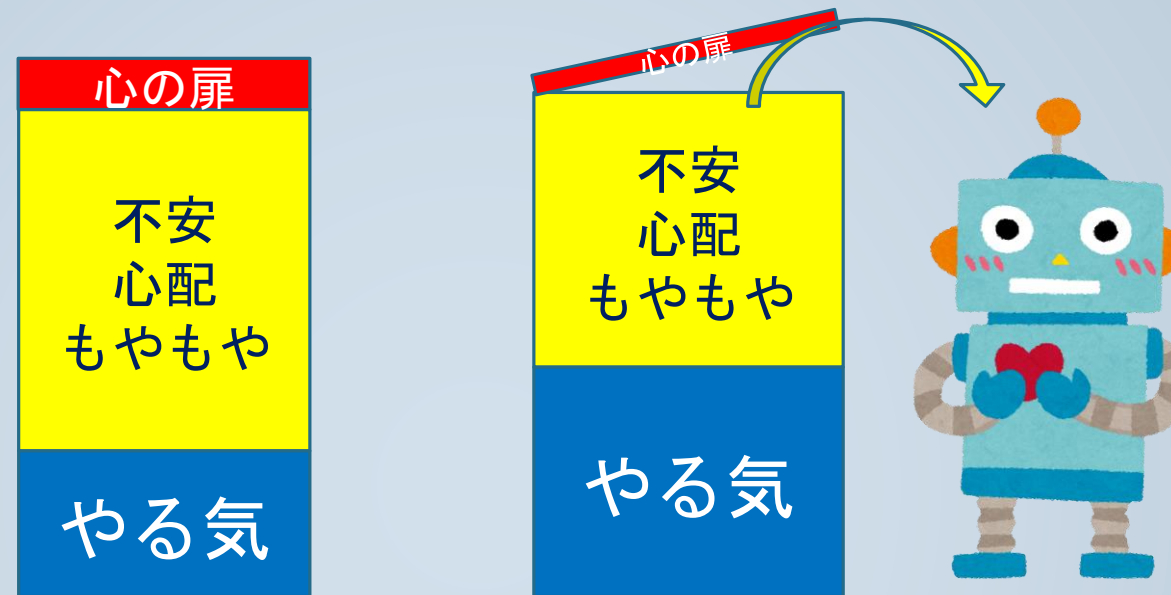


### ③「何かあったの？」

＝行為からイライラを察して尋ねる

→この子が本当は何か気づいてほしいこと  
があるサインと考える

# 心の扉を開けられるように



心の扉を厚くしたり閉ざしたりせず、不安や心配、もやもやがふくらんだ時には、子どもがその扉を適切に開けられるように接すること、そしてその気持ちを受け止めるようにすること

安心を生むかわり

# 「心のシステム」を理解して

まずは「心の扉」を開けられるよう  
な**声のかけ方**を意識してみましよう。



休憩です





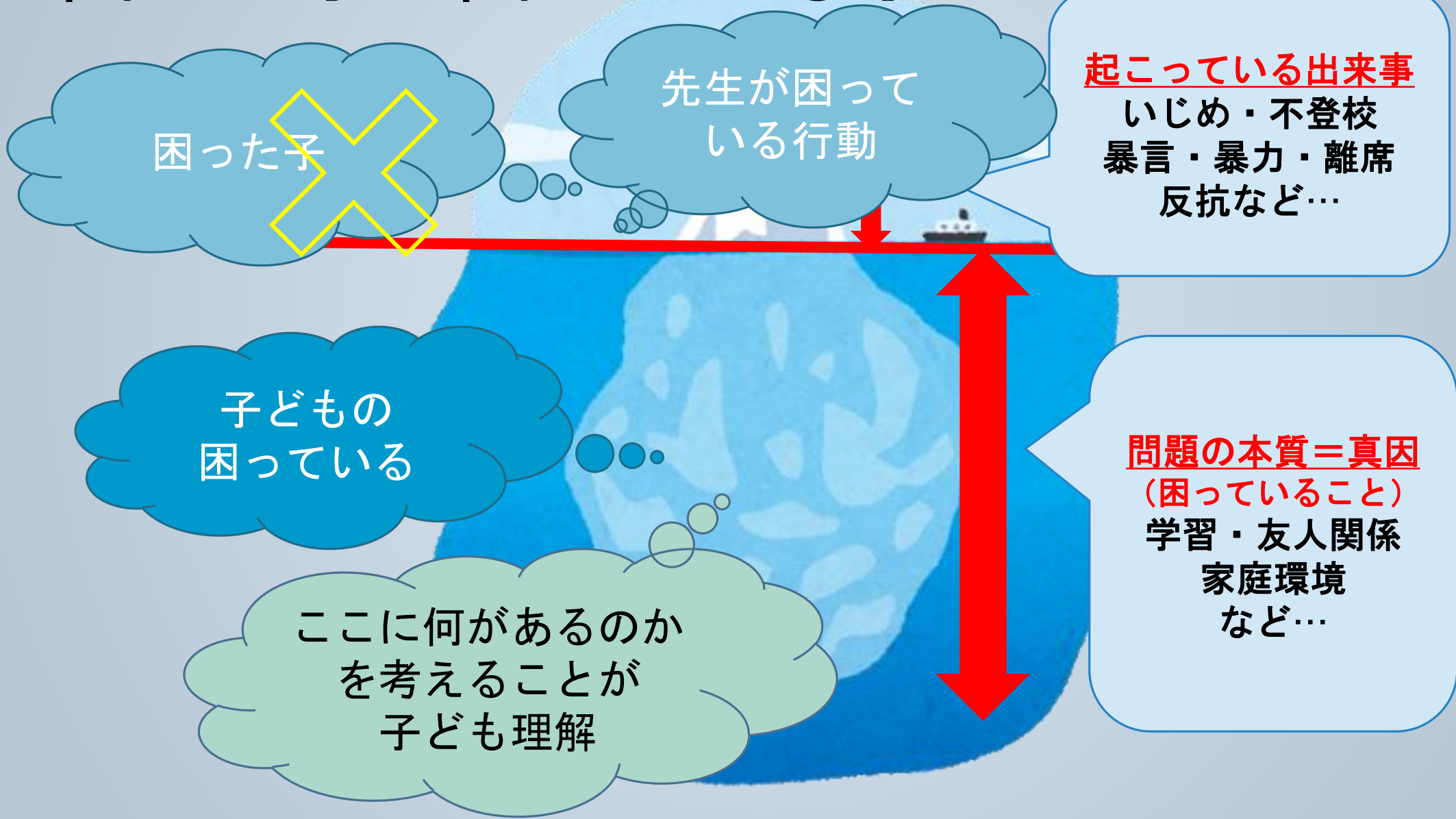
## 2. 見えないものを考える

# 「冰山モデル」

聞いたことありますか？



# 困った子は困っている子



# 困った子は困っている子

## 起こっている出来事

いじめ・不登校  
暴言・暴力・離席  
反抗など

友達を遊びに誘ったのに断られた

授業で活躍できなかった

どうせ今日も怒られる

イライラする

みんなが楽しそう

授業がわからない

見えないものに目を向ける

## 問題の本質＝真因

(困っていること)

自分に自信がもてない  
自分はダメな奴だ  
と思う  
自己肯定感の低下

見えないものに目を向けるには...？

ひとつのヒントとして...

カウンセリングマインド

すると...

疲弊する心



# カウンセリングマインド

児童生徒の**内面**に対する  
教師の**理解**（児童生徒理解）と、  
それを深めようとする教師の**姿勢**

# 「困った子」は困っている...

問題行動



教師が困っている行動



子どもが困っている

サイン



背景・要因



困った子 = 困っている子

どうしてそのような行動をとるのか、目に見えない「**そうせざるを得ないもの**」に目を向けてみましょう。





## 小学校4年男児 Aさん



4時間目、算数の後半です。Aさんは、グループ活動が始まって少し経つと、離席して他の子の筆箱をいじり始めました。筆箱をいじられたBさんは、Aさんに向かって「うざい、あっち行け！」と言いました。その言葉に怒ったAさんは、Bさんの筆箱を後ろの黒板に向かって投げつけ、教室を飛び出してしまいました。

グループ活動が始まってちょっと経つと…

グループに入れない。  
または、受け入れてもらえない。

算数が苦手。何をしたらよいか分からない。  
担任の指示がすぐに理解できない。

離席して他の子の筆箱をいじり始め…

多動傾向。目についた興味のあることに意識が向く。

Bさん「うざい、あっち行け！」…

Bさんに見下されている。  
Bさんもキレやすく、日頃からトラブルがありそう。

筆箱を後ろの黒板に向かって投げつけ、教室を飛び出して…

衝動性がある。

人を傷つけようとはしていない。

これまでも様々な問題を自分では解決できず、その場から離れることで気持ちを落ち着けていた。

…かもしれない。

# チームで対応



支援会議

管理職や養護教諭、  
関係する教職員

どうしたら  
いいんだろう  
...

担任や  
支援教育CO等に相談

小さな気付きでも  
早めに相談・情報共有



## 3. 自己肯定感を育む

# 自己肯定感が低下している子

## 起こっている出来事

いじめ・不登校  
暴言・暴力・離席  
反抗など

まわりに嫌わ  
れる…

授業で  
活躍できな  
かった…

どうせ今日も  
怒られる…

イライラする

テストで悪い  
点だった…

授業がわから  
ない…

## 問題の本質＝真因

(困っていること)

自分に自信が  
もてない  
自分はダメな奴だ  
と思う  
自己肯定感の低下

# 自己肯定感が低下している子へ

## 自己肯定感を育む

この子に  
育てているもの

自己肯定感とは

ありのままの自分を認める感情

「自分の存在には価値がある」  
「自分自身に満足できている」と  
自分の価値や存在意義を肯定でき  
る、そのままの自分自身を認め尊  
重できる感覚のこと

自分を信じることができること

# 自己肯定感を育む

ありのままの自分を認める感情は、  
どのように育つのでしょうか？

ありのままの自分を  
受け入れてもらう経験

# 「褒め方」の実験

1990年代コロンビア大学心理学者クラウディア・ミューラー教授キャロル・ドゥエック教授

10歳から12歳までの子どもたち約400人を対象に知能テストを行う

テストのあと、子どもたちには実際の成績は隠して、個別に「あなたの成績は100点満点中80点でした」と全員に告げた。その際、子どもたちを3つのグループに分け、グループごとに成績を伝える際のコメントを変えた。

グループ1：「頭がいいね」

グループ2：何もコメントしない

グループ3：「よくがんばったね」



# 「褒め方」の実験

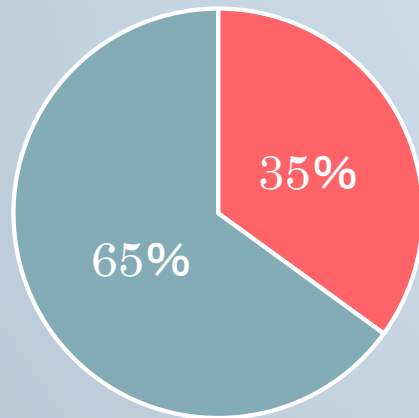
1990年代コロンビア大学心理学者クラウディア・ミューラー教授キャロル・ドウエック教授

コメントを伝えた後に、さらに2つの課題のうちから1つを選んでもらう

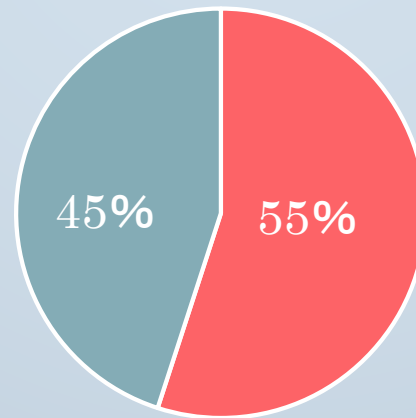
課題1：難易度が高いが、やりがいのある課題

課題2：簡単に解けるが、学びの少ない課題

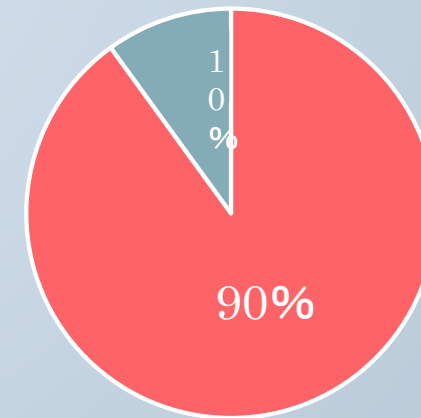
グループ1 「頭いいね」



グループ2 コメントなし



グループ3 「がんばったね」



# 「褒め方」の実験

1990年代コロンビア大学心理学者クラウディア・ミューラー教授キャロル・ドゥエック教授

どうしてこのような結果になったのでしょうか？

結果や能力を褒められると、

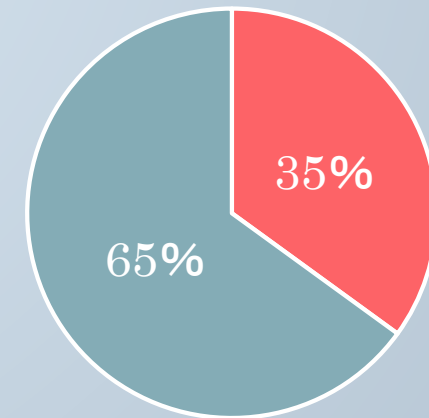
気分は良くなるが、

失敗を恐れる気持ちが生まれる

→ 「結果が出ないと自分の価値  
が下がる」

→ 「条件を満たさない自分は、  
価値がない」

グループ1 「頭いいね」



# 「褒め方」の実験

1990年代コロンビア大学心理学者クラウディア・ミューラー教授キャロル・ドゥエ

どうしてこのような結果になったか

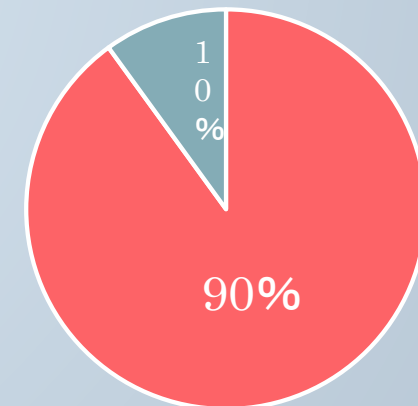
人から肯定されることが  
自己肯定感を育む  
がんばった過程を認める

努力やプロセスを褒められると、**行動したことそのものが肯定される**ので、挑戦を続けることができる

→ 「失敗しても自分の能力のせいではない」

→ 「もう少しがんばれば、できるかもしれない」

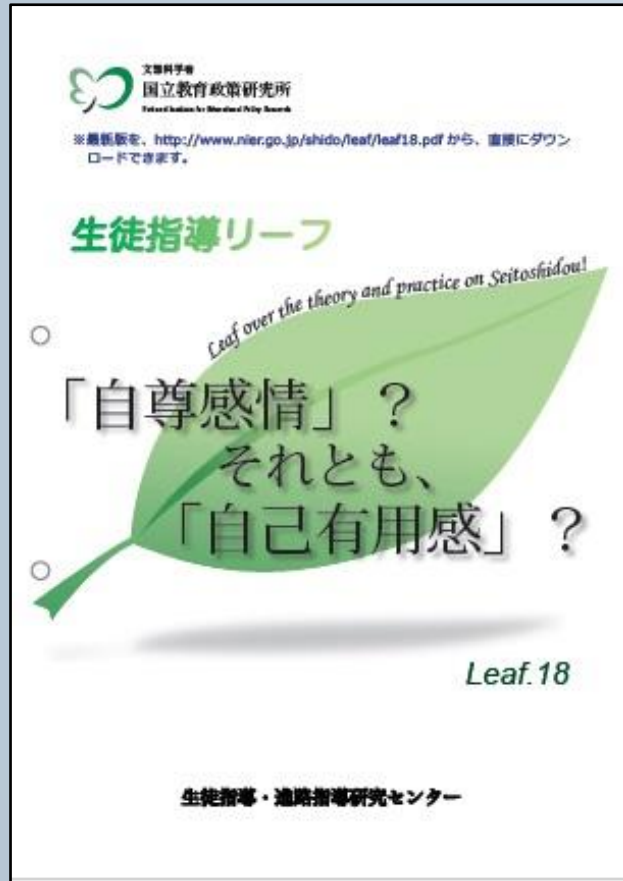
グループ3 「がんばったね」



自分を信じる気持ち = 自己肯定感

# 自己肯定感を育む

自己肯定感  
自己存在感  
自己効力感

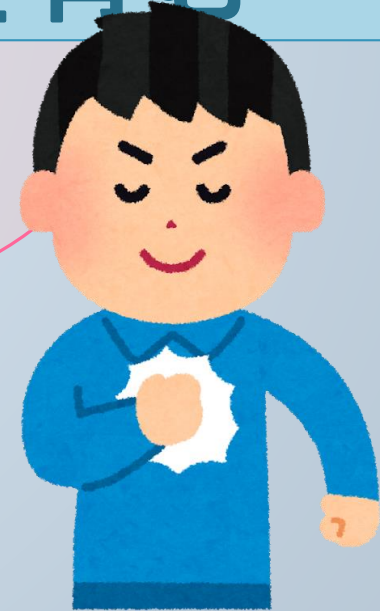


自尊感情(自己肯定感)	自己有用感
自分に自信を持って行動すること	周りの人の役に立っていると感じる事
自分に対する 自分の評価が中心	自分に対する 他人の評価が中心
高まりやすい 感じやすい	高まりにくい 感じにくい
まわりの評価や自分の実力とのギャップで、 自分勝手になる危険がある	高まりすぎると、まわりに振り回されてしまう危険がある

自己肯定感を育む

子どもたちに

自己有用感に裏付けられた  
自己肯定感を育む



自己有用感 に裏付けられた  
自己肯定感 を育むには

「誰かの役に立っている」  
「誰かに認められている」  
という「自信」を持たせること

がんばるぞ！




魔法の言葉


ありがとう

自己有用感 に裏付けられた  
自己肯定感 を育むには

「褒める」と「認める」のちがいは？



褒めることは、  
それ自体で認めるこ  
となんじゃない！？



でも、褒めたのに  
なんかうれしそう  
じゃない…

大人の基準を超えた時に褒めてない？

その子の「こだわったところ」や  
「見てほしかったところ」を褒める  
(その子の基準で)

それが認める  
ということ

自己有用感 に裏付けられた  
自己肯定感 を育むには

「結果」よりも「過程」を！  
「褒める」よりも「認める」！





# 最後に...

担任



サポーター





お疲れさまでした